

みんなと繋がる森

- ・ 景観・資源を活かしている
 - ・ 市民参加型である
 - ・ 環境問題の解決
- ・ 生き物・自然のとの共存
 - ・ 新たな観光地
 - ・ 農業を軸にしている
- ・ 子供の遊び場・子育て環境

「みんなが繋がる森」とは広大な森林公園である。
宿泊施設があり、小～高校までの義務教育期間毎年1週間程度集団共同生活をおこない、
現代社会とは遮断されて生活を送ることができる。
森の中には村があり森を管理しながら自給自足の生活している。

1・地球環境と生活環境への取り組み

1-1 自治体の行事として子供が生まれた家庭に一本の木を贈る。

木は「みんなと繋がる森」に植えられそこで育っていく。

最初是一本の木から始まるがその木は徐々に増え、やがて森となる。

森は酸素を作り、地球温暖化を防ぐ手助けとなる。

1-2 結婚したら夫婦に花を贈る。

花は「みんなと繋がる森」の花畑に植えられそこで育っていく。

最初は一つの花から始まるがその種類は徐々に増え、やがてどこまでも広がる花畑となる。

花畑が広がれば人々は木や花を愛でるために集い、人の輪が生まれる。自分達の分身ともいえるものがあれば郷土意識も高まり地域の過疎化も減る。

森として形が確立すれば住宅街に被害を及ぼしている猿やカラスの寝床となりこれらの被害が減ると思われる。

2・社会貢献

2-1 集落（村づくり）

花や木はある程度、デザイン性や機能性を考慮しているがその他はあまり手をかけず最低限の整備しかしない。

整備はそこに住む村人に任せ、村人自身が村づくりをする。

村自体は主に自給自足で森の管理、運営の仕事をする。

2-2 ホームレス問題と生活保護者の救済

村人は現在、ホームレスをしている人達など貧困にあえいでいる人達などが村を作り自給自足の生活が行えるようにする。

その他森の管理の仕事を提供し、村人は各自が自分の仕事を持っている。

2-3 ドッグバンク設立

保健所に行くことになる犬を受け入れセラピー犬や盲導犬を育成する。

また犬が飼いたくても飼えない家庭には何家族かが共有で一匹の犬を飼うドッグシェア制で「みんなが繋がる森」で飼うことができる。

飼い主のやむ得ない事情により飼えなくなった様々な動物を受け入れ森の中に動物園も作る。動物園では入場料をもらい、それを運営費にあてる。

2-4 セラピー

村ではホームステイもあり森の滞在者を受け入れる。（宿泊施設も有り）

当たり前前自然を身近で感じることによって私たちが忘れていた自然の摂理に従った生き方を学び、心に抱えている悩みや苦しきから解放してもらい病んだ心を治療してもらう。

3・教育

京都やオーストラリアへの修学旅行もいいが、学生の修学の一環として毎年1週間程度課外授業「みんなと繋がる森」研修を実施する。

TV、ガスのない環境で学生は農作物を育てたり動物の世話したり自給自足の生活を送り自然の恵みや慈しむ人間の根っことなる部分を学んでもらう。

最後に

森を育てるのは私たち一人ひとり。
一人ひとりがみんなで未来を作っていく認識を身につけてくれたらすばらしいと思います。
自然の摂理に従った生き方を学べる場所、人間の輪が広がる場所、人と自然が繋がる場所、
それが「みんなと繋がる森」。

私が小さい頃基地とよんでいた場所は10年ほどして区画整理が行われ住宅街に変わって
しまい面影もありません。

「昔みんながよくここに集まって」
という言葉は今の子供たちに残せたら幸いです。

私達一人ひとりが作り上げた森ならばいつまでも場所を変えずそこあり続けますよね？